

□

次の(1)～(10)の——線のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みを答えなさい。

- (1) キユウキユウ車のサイレン。
- (2) 目標にタツする。
- (3) ネットウで消毒する。
- (4) 花をテーブルの上にオク。
- (5) 道にマヨウ。
- (6) 牛を二頭預かる。
- (7) 物語の文末をよく読む。
- (8) しめ切りを厳守する。
- (9) いい香りを放つ。
- (10) とても有益な仕事だ。

二 次の文(1)～(5)の——線と、同じ用法のものをそれぞれ後の

ア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

(1) 遠足に出かける。

ア、雨に降られる。

イ、元気になる。

ウ、母に電話をかける。

エ、服を買いに行く。

(2) お母さんの言ったことは本当だ。

ア、祖父の教えてくれたことはこれからも忘れない。

イ、父に勉強しろだの部屋をきれいにしろだの言われる。

ウ、一人でゆっくり本を読むのは楽しい。

エ、私のセーターはどこにあるのですか。

(3) 台風で木々がたおれてしまった。

ア、少女は大きな目で私を見つめた。

イ、わからない単語を辞書で調べる。

ウ、結論が不満で争いが起こった。

エ、富士山で初雪が降った。

(4) 父は仕事場から今帰ったばかりだ。

ア、そでをちぎれんばかりに引っぱった。

イ、女の子はただ泣くばかりだった。

ウ、バスはさっき出たばかりです。

エ、やせたいばかりに少ししか食べない。

(5) バラの花がきれいだ。

ア、安いが、品質はよさそうだ。

イ、風がはげしく吹く。

ウ、顔色が悪いようですが、どうしましたか。

エ、彼は字がきれいだが、絵もうまい。

③ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、本文を省略したところがあります。）

*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

今ではテレビを通じて、スペースシャトルの中で働く宇宙飛行士たちの姿を見る機会が、ずいぶん増えてきました。彼らはみんな一様に顔がむくんでいます。パンパンにはれあがって、顔がテカテカ光って見える宇宙飛行士さえいます。日本人宇宙飛行士の中でも、毛利衛さんや向井千秋さんにはその傾向が強くあらわれて、二人の顔はよく宇宙医学の学会でもスライドにして紹介されます。

① むくんではれあがった顔を、医学用語で「ムーンフェイス」と呼びます。① どうして宇宙にいくと「ムーンフェイス」になってしまうのでしょうか。

地球の上では、私たちのからだを地球の中心に向かって引っ張る力「重力」が働いています。川の水が上から下に向かって流れるのも、リングが木から落ちるのも、「重力」の働きによるものです。重力は、「重力」をあらわす英語「GRAVITY」のかしら文字をとって、「G」であらわされ、地球の重力はその基準となる「1G」です。

ですから私たちのからだは常に地球の中心方向、すなわち地球の核に向かって「1G」の力で引っ張られていることとなります。これ

は生まれてからズーッと、あたりまえのこととして私たちのからだに加わってきた力なので、日常の生活の中で重力を感じることはほとんどありません。

1 「1G」の重力は、実際にはけっこう強い力です。私たちのからだの中を流れる水「血液」も、やはり重力によって地球の中心方向に引っ張られています。寝ているときには背中の方に、立っているときには足の方に引っ張られているのです。何もせず放っておけば川の流れとおなじように、上半身（頭）から下半身（足）の方向へ勝手に流れていってしまつて、血液はドンドン足にたまってくるはずですよ。

放っておけば下半身（足）にたまってしまつて血液を、がんばって上半身（頭）にくみ上げるポンプの働きをしているのが心臓の役目です。しかし心臓がいくらがんばって引っ張りあげても、強い重力の影響によって、地球の上で生活する私たちの血液は、どうしても頭より足の方にたまりやすくなっています。

2 宇宙にいくと、私たちのからだは重力のない世界、「無重力」を体験します。無重力の世界では、上のものを下に引っ張る力がなくなるので、I に引かれて足にたまっていた血液が、

II の力で頭の方にのぼっていきまふ。宇宙では、頭に血がのぼってしまうのです。まるで鉄棒に足を引っかけて、さかさまにぶらさ

がったかのようなです。そうすると頭に血がのぼって、頭がボーッと
してくるでしょう。そのうちクラクラして意識がもうろうとなつて
くるのは、頭に血液がドツと流れこんで脳がむくんできた証拠（しょうこ）です。
宇宙では、それとおなじ状態がおこるのです。

40

③ 宇宙にいったとき、いったいどのくらいの血液が頭にのぼっ
てくるのでしょうか。地球にいるときよりもおよそ三十パーセント
も多くの血液が、宇宙ではよけいに脳に流れこむのです。この三十
パーセントという数字は、実際にスペースシャトルに機械をもちこ
んで調べられてもいますが、ここに私がおこなった地上での実験結
果があります。

45

② 私たちのからだをめぐる血液を調べる目的の地上実験は、主に人
間をベッドに寝かせたままで何週間も過ごすさせる「ベッド・レスト・
スタディ」を通しておこなわれます。^a「ベッド・レスト」とは、「ベッ
ドに寝たまま何もしないで休む」という意味です。すべての日常生活
活動を寝たままでおこなうのですから、実験される側（被験者（ひけんしゃ））にとっ
ては大変なことです。ふつうこのベッド・レスト・スタディは三週
間くらいにわたっておこなわれるので、この期間ずっと寝たままで
生活するのです。

50

※ さて、次のページの図(1)はベッド・レスト・スタディで脳に流れ
こむ血液がどのくらい増えたかを示しています。最初の一週間から

55

二週間にかけて、脳の血液は三十パーセントほど増えています。こ
れは二十日間のベッド・レスト期間中ずっと続いて、ベッド・レス
トが終わったとたんにまたもとにもどりました。

※ どのくらい脳の血液が増えたのかは図(2)を見るとわかるでしょう。
60

とがった波の部分が、脳に流れこむ血液の速さです。だいたい血液
の量と考えられます。^bベッド・レストが始まる前の血液の量が、ベッ
ド・レストが始まって寝たきりになるとグンと増えています。

③ 宇宙でもこれとまったくおなじことがおこります。宇宙にいった
とたんに重力がなくなると、下半身に集まっていた血液が上にのぼっ
て、上半身にドツと流れこみます。だから足が

65

A になって、首
周りは B になります。平均して、宇宙にいくと首周りは四セン
チくらい B なるようです。これは、上半身をめぐる血液が三
十パーセントちかく増えた結果です。

ここまで「無重力」ということばを無造作につかってきましたが、
70 無重力とはいったいどのような状態なのでしょう。

宇宙の専門家たちはあまり無重力ということばをつかわず、「微
小重力（しやうじゆうりき）」と呼びます。スペースシャトルの中で経験できるのは、
無重力に限りなくちかいかい微小重力の世界なのです。それでも、微小
重力を一度体験すると、今度は「重力のある世界が逆に感じら
れてきてしまう」というから不思議ではありませんか。実は広い宇
75

宙からながめたときには、重力のある世界の方がむしろ特殊な環境きょうとうなのです。一度宇宙にでて微小重力の世界を体験してみると、そのことが実感できるのです。

以前、日本人の女性として初めて宇宙へいった向井千秋さんと食事をした時のことです。向井さんは宇宙に行く前に、エイムス研究所で宇宙実験の訓練を受けるので、よく私たちの研究室にもやってきます。エイムス研究所ちかくのレストランで私たちとタイカレーを食べながら、こんなことを話してくれました。

「宇宙から地球に帰ってくると、ティッシュペーパーの重さまでわかってしまうんですよ。鼻をかもうとしてティッシュペーパーを一枚つまみあげたら、その重さを感じたんです」

「地球にもどった夜、そろそろ寝ようと思ってベッドに横になろうとしたんです。でも、足が重くてもちあがらないんですよ。しょうがないから手でドッコイシヨって足をもちあげて、ようやくベッドに横になれたんです。足が重いなんて感じたことは、それまで一度もなかったのに」

無重力を体験して、初めて重力の大きさを実感できるんですね。

（三井いわね『ヒトは宇宙で進化する』）

※図(1)・図(2)……問題を解く上で必要ないので、ここでは省略した。

問一 —— 線①の問いかけに対する答えを次のようにしたとき、

空らんにあてはまる部分を本文中から十一文字でぬき出なさい。

宇宙に行くと、重力がなくなって体内の（ ）ため。

問二 にあてはまる語を次からそれぞれ選び、記

号で答えなさい。

ア、さて イ、しかし ウ、だから エ、それでは

問三 、 に入る言葉を、一語で本文中からぬき出し

て答えなさい。

問四 —— 線②の主語と述語を次からそれぞれ選び、記号で答え

なさい。

ア	イ	ウ	エ	オ	カ
私たちの	からだを	めぐる	血液を	調べる	目的の
地上実験は、	主に	人間を	ベッドに	寝かせたままで	何週間も
ス	セ	ソ	タ		
すごさせる	「ベッド・レスト・スタディ」を	通して	おこなわ		

れます。

問五 —— 線 a、b と同じ用法のものをそれぞれ選び、記号で答え

なさい。

何もしないで^a

- ア、自転車の二人乗りはあぶない。
- イ、最近のテレビ番組はおもしろくない。
- ウ、雲一つない青空が広がる。
- エ、チームの勢いが止まらない。

考えられます^b

- ア、病気の父のことが案じられる。
- イ、すぐ答えられる問題。
- ウ、外国人に道をたずねられる。
- エ、校長先生が教室に来られる。

問六 —— 線③を説明したものとして最も適切なものを次から選

び、記号で答えなさい。

- ア、ベッドレスト・スタデイの実験が終わり、寝たきりの状態から解放されるとすぐに血液の流れがもとにもどるのと同様に、宇宙から重力のある地球に帰るとすぐ、上半身に集めた血液ももとにもどる。

- イ、数週間にわたる無重力での実験で脳の血液量が三十パーセントほど増えたのと同様に、宇宙に行くと下半身に集まっていた血液が、上にのぼって脳の血液量が増える。

- ウ、ベッドに一、二週間寝たままで生活すると、脳の血液が三十パーセントほど増えるのと同様に、無重力の宇宙に行くとたん、下半身の血液が上にのぼり、上半身の血液が三十パーセントほど増える。

- エ、ベッドに横になったとたん、脳の血液が三十パーセントほど増え、一、二週間かけて増え続けるのと同様に、宇宙に行くと上半身の血液が、数週間にわたって増え続ける。

問七

□A、□Bには反対の意味の形容詞が入ります。適切な形にして答えなさい。（二つある□Bには同じものが入ります。）

問八

~~~~線「結果」の対義語を漢字で答えなさい。

問九

——線④とありますが、このように感じられる例として具体的にあげられているものをそれぞれ十〜二十字以内で二つ答えなさい。

## 四

次の文章は、オーケストラの指揮者として活やくした筆者が、NHK交響楽団の事務局にいた延命千之助さんとの思い出を記したものです。よく読んで、後の問いに答えなさい。

\*字数指定のある問題については、句読点・記号も字数に数えます。

※ベルリン・フィルのバルトロークを世界一の裏方だと、何度も書いた。しかしカール・ルイスが百メートル9・92秒とか、プロ野球のリーディングヒッターが誰ぞれだというように、世界一、二を決めることができる仕事ではない。そう多い数ではないけれど、ぼくが知っているだけでも、オーケストラの裏方で何人かの「世界一」がいる。

わが国からは二人の「世界一」を、躊躇なく挙げるができる。

※ひとり、十年ほど前までNHK交響楽団の事務局にいた延命千之助さんである。もうひとりは、近衛管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団を経て、現在サントリートールの裏を取り仕切っているマーちゃんこと、宮崎隆男さんだ。

ぼくとの付き合いの歴史の長さは、二人ともほとんど同じだが、全く違う出会いで始まった。

延命さんの名前を最初の二年間ほど、ぼくは全然知らなかった。

15

ひとのことを追っ払い、追い掛け回すイヤな奴だったのだ。

※芸大二年のころぼくは、悪友の山本直純とN響の音楽会にもぐりこむ常習犯だった。われわれは、東京フィルハーモニーや東京交響

楽団のような、スポンサーなしで頑張っている民間の貧乏オーケストラを、切符なしで聴くようなはしたないことをしなかった。

当時のぼくたちに体制の権化、権威のかたまりに見えたのがN響だった。だから常に「もぐり」に挑戦したのである。しかもN響にはマルチノンやカラヤン等の世界の名指揮者が客演していた。

聴きたかったのは当たり前だ。

②事務局に入ったばかりだった延命さんが命じられたのは、ぼくたちのようなもぐりの若者を取り締まる仕事だったのだ。彼は役目に忠実だった。だからこそもぐる甲斐もあった。彼とわれわれとの鬼ごっこについては、これまで他の本に何度も書いてるので省略する。

しかしぼくが芸大の四年になったとき、いきなり当時のN響事務長の有馬大五郎氏に呼ばれて事務所を訪ねたことがある。このときの延命さんの顔は、今思い出しても吹き出してしまうほど可笑しかった。

「なんや、お前、何しに来た?!」

もぐりの常連に怒鳴りつけたのだ。

「あのう……、有馬先生が訪ねて来いというわけで……」

「なんやって? ウソなんかつきおって、コイツ!」

35



後に知ったのだが、延命さんは能登のとの生まれである。それを知らないわれわれは、いつも追い掛け回されながら、関西弁に似ているようでちょっと違うアクセントを、「N響※おかの岡びっ引き言葉」と言っていた。

「延命、こちらにお通ししろ」

事務所の奥から声があり、延命さんはふくれっ面つらをしてぼくを有馬事務長の机に案内した。

「ようこそお出いで下さいました。オイ延命、お茶を差し上げなさい」

事務長に命じられて、延命さんの顔はくやしさのあまり二、三倍

にふくれあがったのだった。その日からぼくは指揮研究員という、副指揮者みたいな立場になった。昭和二十九年のことである。N響の練習を見学することと本番を聴くのが、ぼくの仕事になったわけだ。もちろん切符なしである。延命さんは毎日ぼくを見るたびに、

A、というコワイ顔をして睨にらんだ。

翌年の春、N響を指揮するチャンスが初めてきた。正式のデビューはその次の年の秋に日比谷公会堂でチャイコフスキーの「悲愴ひそく」を指揮したということになっているが、それ以前に公開録音等を指揮する機会が何回あった。

その時、いつもぼくを小僧b こぞうっ子扱あつかいしている延命さんのプロト⑤としての凄すこさを思い知ったのだった。

55

指揮をする朝、練習場に行くとき、

B

ときた。驚おどろいた。まるで違う人間なのだ。演奏会が終わるまでの三日間、徹⑥ てつ徹てつ一人前の指揮者に対する態度である。当時の

常任指揮者ニクラウス・エッシュバツハーや大物の客演に接するのと、寸分すんぶん変わらない。本番が終わると指揮者室でせっせと着替きかえの手伝いをしてくれ、楽屋口まで付添つきそい、別れるときに、

C

と、最敬礼するのだった。

翌朝研究員として、次の指揮者の練習の見学に行く。延命さんはいつもの口調くちように戻もどっている。

D

ぼくはたちまち見習い指揮者に転落したのだった。延命さんがいつもぼくを一人前の指揮者としてしゃべりかけてくれるようになるまでには、数年かかった。

彼はN響を振ふる指揮者には、練習と本番を通じて仕事が終わるまで、どんな新米でも巨匠きよしょうに対して、ステージマネージャーとして全く同じ態度で接するという哲学てつがくを実践じっせんしていたのだと思われる。

ぼくが彼に普通の指揮者らしく扱あつかわれるようになったところである。

夏の暑い真まっ盛りさかりに、東海地方の演奏旅行をした。エアコンのある

75

ホールは、全国にまだ数えるほどしか存在しなかった。

静岡の会場は湿気と暑さでムンムンしていて、ぼくはメインの「悲愴交響曲」の第三楽章が終わったところ、脳貧血のうひんけつになった。必死に我慢して第四楽章に入った。目の前が紫色になり、ほとんど何も見えない状態である。歯を食いしばり、やっと終えた。

聴衆の前である。眼が眩くらんでいるのをこらえて袖そでに戻り、ヘタヘタとしゃがみこんだ。延命さんは一応濡れタオルでぼくの顔を拭いてくれたが、なんとも冷たい声で命令するのだ。

※「マエストロ、はい立って！ ステージの真ん中まで行ってお辞儀をしてらっしゃい」

コンチキショウ、なんてひどい奴だ。しかし依然いぜんとして目の前は紫色である。よろよろ舞台の中央まで歩き、無理して微笑ほほえんでお辞儀をした。袖に辿り着くと、また倒れかかる。

「もう一度、はい。出て行ってアンコールをやっていらっしゃい」  
冗談じょうだん言うなよ、と叫さけぼうとしても声が出ない。結局アンコールを指揮したあと、ぼくは気を失った。

翌日、ぼくは延命さんに猛然もうぜんとからんだのだ。

「ひとがあんな状態のとき、よくもあれほど残酷ざんこくになれるもんだ。人間として許せない」

彼はヘラヘラ笑った。

95

「マエストロ、わたしが暖かく励はげましたり慰なぐさめたりしたら、どうなったと思うすか。あんたは最初に戻ってきたときに、気絶してませ」

なるほどと感心した。シヤクだったが内心感謝した。本物の裏方の凄さを思い知らされたのだった。

（岩城宏之『フィルハーモニーの風景』）

※ベルリン・フィル……ベルリンフィルハーモニー交響楽団のこと。

ドイツの世界的オーケストラ。

※リーディングヒッター……首位打者。

※躊躇……決心がつかず迷うこと。

※NHK交響楽団（N響）……日本の世界的オーケストラ。

※芸大……東京芸術大学。

※山本直純……指揮者・作曲家。一九三二～二〇〇二。

※権化……ある性質の精神を最もよくあらわすもの。化身。

※岡っ引き……江戸時代、犯罪者の捜査や逮捕のために働いた者。

※袖……舞台の左右の端で、観客からは見えないところ。

※マエストロ……芸術の大家、巨匠。尊敬を込めて指揮者を呼ぶと

きの呼び方。

100

問一 —— 線①とありますが、筆者がN響の音楽会にもぐりこみ

たかった理由を次のようにまとめました。ア、イ  
 にあてはまる内容を、（ ）内の字数指定に合うように本文  
 からぬき出して答えなさい。

筆者には、N響が民間のオーケストラと違って ア（十一字）

ので、鼻を明かしてやりたいという思いがあった。

また、N響には イ（十四字） こともあって、どうしてもも  
 ぐりこみたかった。

問二 —— 線a「はしたない」、b「小僧っ子扱い」の意味とし

て、適当なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

a はしたない

- ア、はずかしい
- イ、つつしみが無い
- ウ、とりとめの無い
- エ、つまらない

b 小僧っ子扱い

- ア、若者をこばかにするようない
- イ、都合よく利用するようない
- ウ、子どもを教えさとすようない
- エ、じゃま者にするようない

問三 —— 線②とありますが、このころの延命さんに対する筆者

の印象を述べた部分を本文中から二十一字でぬき出しなさい。

問四 —— 線③とありますが、筆者たちがこのように呼んでいた

理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、関西弁に似ているようでちよつと違うアクセントが、まるで江戸時代にもどったかのように古めかしくおごそかな響きに感じられたから。
- イ、関西弁に似ているようでちよつと違うアクセントを、どこのオーケストラでも音楽会にもぐりこむ若者を取りしめる人はたいてい話していたから。
- ウ、関西弁に似ているようでちよつと違うアクセントを、音楽会にもぐりこむ若者を取り締まる役目の延命さん独特のアクセントだとかん違いしていたから。
- エ、関西弁に似ているようでちよつと違うアクセントが、能登生まれの人らしく、自分の役割に忠実な延命さんに似合っていると思っていたから。

問五 —— 線④とありますが、このときの延命さんの気持ちを次

のように説明しました。

ア、イ

にあてはまる内容を、

( ) 内の字数制限に合うように答えなさい。

問八 —— 線⑥の□に入る漢字を次からそれぞれ選び、四字熟

語を完成させなさい。

〔 頭 首 肩 胸 腹 尾 足 〕

ア(二十五字以内)

だけでも納得できないのに、さらに

イ(二十五字以内)

ことがくやしかった。

問九

—— 線⑦とありますが、筆者はどうして感謝したのですか。

五十字以内で説明しなさい。

問六

A

く

D にあてはまる内容を次からそれぞれ選

び、記号で答えなさい。

ア、お疲れさまでした。有難うございました

イ、そこんとこに座つとつたら邪魔や。どいた、どいた！

ウ、この若造のモグリめ

エ、マエストロ、お早うございます

問七

—— 線⑤とありますが、ここで筆者が言っている延命さん

の凄さを、最もよく説明している一文を本文中から探し、最

初の五字を答えなさい。